

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270103437
法人名	有限会社 なぎさ
事業所名	グループホーム なぎさ
所在地	長崎県長崎市かき道6丁目3番5号 (電話) 095-813-3921
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年 2月22日

【情報提供票より】 (平成20年 1月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤19人, 非常勤	人, 常勤換算15.7

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2階建ての 階の一部

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く) (おむつ代実費)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	実績に応じ請求
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (1月12日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	7 名	要介護2	6 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 85 歳	最低 74 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大久保病院・千綿病院・清原病院・泉田歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

矢上大橋の間に立地し、山と海に恵まれており見晴らしもよく快適な生活のできる環境にある。近隣の病院との連携がよく、緊急時についての協力体制に恵まれ、音楽療法や散歩等、身体能力の低下を防ぐ取り組みに力を注いでいるホームである。また、建物の造りや広い敷地を十分に使って、各スペースが広々として、リビングから出入りできるウッドデッキでは利用者が天気のいい日にランチを楽しんだり、日光浴ができ、楽しみ事のひとつとなっている。そこに従事する職員も何事も利用者本位の支援に心がけており、チームワークがよく、それが利用者の「癒し」の空間をつくることにも繋がっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題について全職員で話し合い、車イスの方が多いため、洗面所のタオルの位置の変更が成されていた。緊急時の手当についても実技研修を行われており改善されていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価・自己評価については、その意義を管理者他職員全員が理解しており、今回の自己評価についても職員で話し合い、それを基にひとつにまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会・老人会・第三者委員会・地域包括支援センター・家族のそれぞれ代表とホーム職員で構成されており、平成18年12月から2ヶ月に1回行われている。内容は利用者の日々の状況報告が主で、会議の中で家族からの要望等受け入れ、メッセージカードの作成等、直ぐに改善に取り組み介護支援の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書の中に苦情受け付け先、苦情相談の解決方法の流れについて明確に表記されており説明もされている。運営推進会議でも第三者委員を構成メンバーに入れ、その場で説明も成されている。面会時に於いても、意見の吸い取りを行い運営の改善に取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事にも積極的に参加している。近隣の橘小学校の行事に参加、近隣マンションの方々との交流、夏祭り、秋祭りへの参加等、自治会、老人会などにも積極的に声をかけて地元の方々との交流や連携を計っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営理念については、「癒し」の理念をモットーに、地域住民との交流にも力を入れ、誕生会、夏祭り、クリスマス会など地域の方を迎えて、理念を具体的に地域密着型として実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が経営理念・経営方針を記載したカードを常に名札と共に携帯し、又、月2回の職員会議での読み合わせと確認などにより、共有化し、日々の介護に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事にも積極的に参加している。近隣の橋小学校の行事に参加、近隣のマンションの方々との交流、夏祭り・秋祭りへの参加等、自治会、老人会などにも積極的に声をかけて地元の方々との交流に深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価・自己評価については、管理者他職員の全員が理解している。評価の改善項目についても、全員で話し合い直ぐに仕組み利用者が快適に暮らせるように積極的に取り組んでいる。ペーパーホルダーの位置の改善も直ぐに実行されていた。今回の自己評価についても職員で話し合い、それを基にひとつにまとめている。		

グループホーム なぎさ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、自治会・老人会・第三者委員会・地域包括支援センター・家族のそれぞれ代表とホーム職員で構成されており、平成18年12月から2ヶ月に1回行われている。利用者の日々の状況報告、家族からの要望等受け入れ、メッセージカードの作成等、直ぐに改善に取り組むなど介護支援の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村主催の研修会へ参加することにより市町村の方々との関係を密にして、介護支援に活かしている。また高齢者すこやか支援課とのつながり、介護相談員の派遣等、連携を行い支援サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回の請求書発送の折にグループホームなぎさだよりを同封するとともにメッセージカードに利用者の日々の暮らしの様子等を書いて、利用者家族が安心できるよう支援し、同時に金銭報告を実施している。また、職員の異動等は本人、家族に口頭で行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の中に苦情受付先と苦情相談の解決方法の流れについてが明確に表記されており家族への説明もされている。運営推進会議でも第三者委員を構成メンバーに入れ、説明が成されている。面会時に於いても、意見の吸い取りを行い運営の改善に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は出来るだけしないようにして、利用者に不安を与えないように配慮している。職員の入れ替えがある場合には、コミュニケーションがうまくとれるようにまずはなじみの関係づくりから入り介護支援に努めている。		

グループホーム なぎさ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	長崎地区グループホーム研修会への参加、年計画も組まれている。研修一覧表により受講希望を出し、昼間・夜間を問わず受講できるようホーム側で支援している。また月1回内部研修で希望のテーマを決め講師を招き勉強会が行われており、各個人のスキルを上げる事により質の良い介護支援が出来るように取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の11の施設とのグループ交流会を毎月実施している。他のグループと勉強会や親睦会を実施する事により自らの介護支援を振り返り、質の向上を図ることが出来るよう取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望を受付けた後、利用者、家族も一緒にホーム内を見学し、話し合ってから入居となる。入所当初は家族から情報を得て、その情報を基にした介護支援の中で日々の会話を組み立て自然に馴染んでもらえるよう、安心してもらえるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に合わせた支援を心がけており、本人の得意とする事、生活歴から出てくる話など日々の介護支援の中に共通し合える関係を築いている。食事の準備の段階で米の研ぎ方を教わったり、畑の世話は散歩などの時に利用者と職員と一緒に過ごせるような関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の希望に応じて、水彩画・短歌等個人の得意分野を活かした支援を実施している。更に家族からの要望も取り入れ、納得の行く支援に向けて取り組んでいる。また思いを表に出せない方については日々の生活の中での表情の変化を見逃さないようにして職員で共有し思いをくみとっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	まず職員が利用者の要望を聞き、介護計画の骨組みを作成している。それを基に協力医療機関と会議を行い、その指導とともに家族への説明・要望を取り入れながら、ケアマネージャーが作成している。また、作成後も職員間で意見交換を行い、現況に即した介護計画がたてられている。現在利用している計画書様式については使いづらい点があるため、変更の検討中である。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングシートは3ヶ月ごとに見直しを成されており目標→援助内容→実施状況が明確に記録されている。利用者の心身の状態の変化や状況の変化があった場合は、それにに応じて、主治医等を交えて意見を交換し、家族の意見、利用者本人の気持ちに対応した見直しを行っている。いずれの見直しも月1回のサービス担当者会議で話し合いが持たれプラン変更を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人や家族の状況や要望に応じて他の医療機関への通院や送迎など必要な支援については柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努めている。また、早期退院に向けての支援等も行っている。		

グループホーム なぎさ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、内科については協力医療機関をかかりつけ医としている利用者が多く、連携は取れている。歯科は個々のかかりつけ医があり、送迎は家族の送迎が基本であるが個別に家族と話し合い協力して通院等支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては、今後避けられない問題で、職員の指導の必要性を感じているが、利用者家族との話し合いに留まり、ホームの方針等を定めていない。	○	利用者の中には、今後、ターミナルケアが必要になってくる方もいる為、できるだけ早い段階でホームとしての方針を決め、かかりつけ医や家族との意思確認をされることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の利用者への言葉かけは、食事やトイレ誘導時等、やさしく丁寧であり、敬語を使った言葉かけがされている。記録等の個人情報については、同意書があり利用目的を本人、家族に示し承諾を得ている。またその保管についても来訪者の目に触れない所定の場所に収納している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの一日の流れはあるが、その日の利用者の個々の気分や健康状態を優先し、散歩やドライブに連れ出したり、室内でテレビや音楽を楽しんだり柔軟な対応が成されている。また、就寝の時間も個々で自由である。		

グループホーム なぎさ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	評価当日は丁度、2ユニット合同の誕生会であり季節の食材を使った食事が並べられ、利用者も楽しんで、美味しそうに食べていた。職員も会話を楽しみながら一緒に食事をとっている。また食事の後片付けを手伝う利用者もいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は月、木、土が入浴日であるが利用者のその日の希望を聞いており、別の日に入りたい方には支援できる体制がある。浴室には浴槽が2つあり、1つに入浴剤を入れ好みに応じて利用されている。また気心が知れた利用者同士2人での入浴も楽しむことができ利用者の憩いの場となっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	特に役割として決めてはいないが、生活歴を活かして、絵を描いていた方にカレンダーを作成してもらったり、花の世話、洗濯たたみや掃除等、自然に楽しみながらできるよう支援されている。また、楽しみ事としては畑の収穫や簡単な料理作り、広いウッドデッキを利用してランチを楽しんだり、日光浴を行うことで気晴らしの支援にも繋がっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	有料道路の側ではあるが、周りが住宅街でもあり大きな公園や海岸沿いを安全に散歩できるコースもあり、利用者の希望を聞いて、天候等考慮したうえで、日常的に外出支援がよく成されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員については、見守りを徹底し、日中鍵をかけないケアに取り組んでいる。事故防止の為ドアの開閉時にはチャイムがなる。リビングから全体を見渡せるため夜間者はリビングで待機している。また、病気の利用者に転倒防止のためベッドの所にセンサーを設置しているが、本人、家族の了承済みである。		

グループホーム なぎさ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火気・事故・災害・転倒・転落・車両等について詳細なマニュアルがある。職員もそのマニュアルにそって自主防火や事故防止に努めている。避難訓練は年2回行われ、出火場所や時間帯の想定を変えて訓練が行われていることを報告書で確認できた。またホーム周辺のマンションや有料道路の料金所の方に災害時には協力が得られるよう日頃から働きかけを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はキッチンスペースの関係から1階で、ほとんどのものが作られている。献立については栄養指導を受けバランスに配慮されている。調理法についても、刻み食等個々に応じて対応されていた。またその摂取状況は、残食状況や水分を職員が管理しており、水分については入浴後、リハビリ後といつも水分がとれるような配慮が成されていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆が憩うリビングの畳部分は床暖房になっており、殆どの利用者は一日中、居室に戻られず、リビングで過ごしているということは、その居心地のよさを物語っている。特に1階は広々とした造りになっており畳部分が催し物の舞台となる。また、戸外が望める木製バルコニーが特徴で、植えている花々から季節を感じながら外の空気を吸い昼食等ができる広さがあり利用者の楽しみ事のひとつとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、畳の敷かれた部屋が多く、収納に便利な造りの家具が備え付けられていた。各部屋、利用者の思い思いに趣味の書籍がたくさんある部屋や使い慣れた好みのものを飾った部屋等、その人なりの工夫のある部屋が視られ、各々がゆっくり過ごせる配慮があった。		

※ は、重点項目。